

# 「防衛」から「戦略・伴走」へ：ダイキン知財経営におけるDX変革の全貌

ダイキン工業がいかにしてレガシーな知財管理から脱却し、AIとデータ基盤を活用した「戦略・伴走型」の知財組織へと進化したかを伝える。

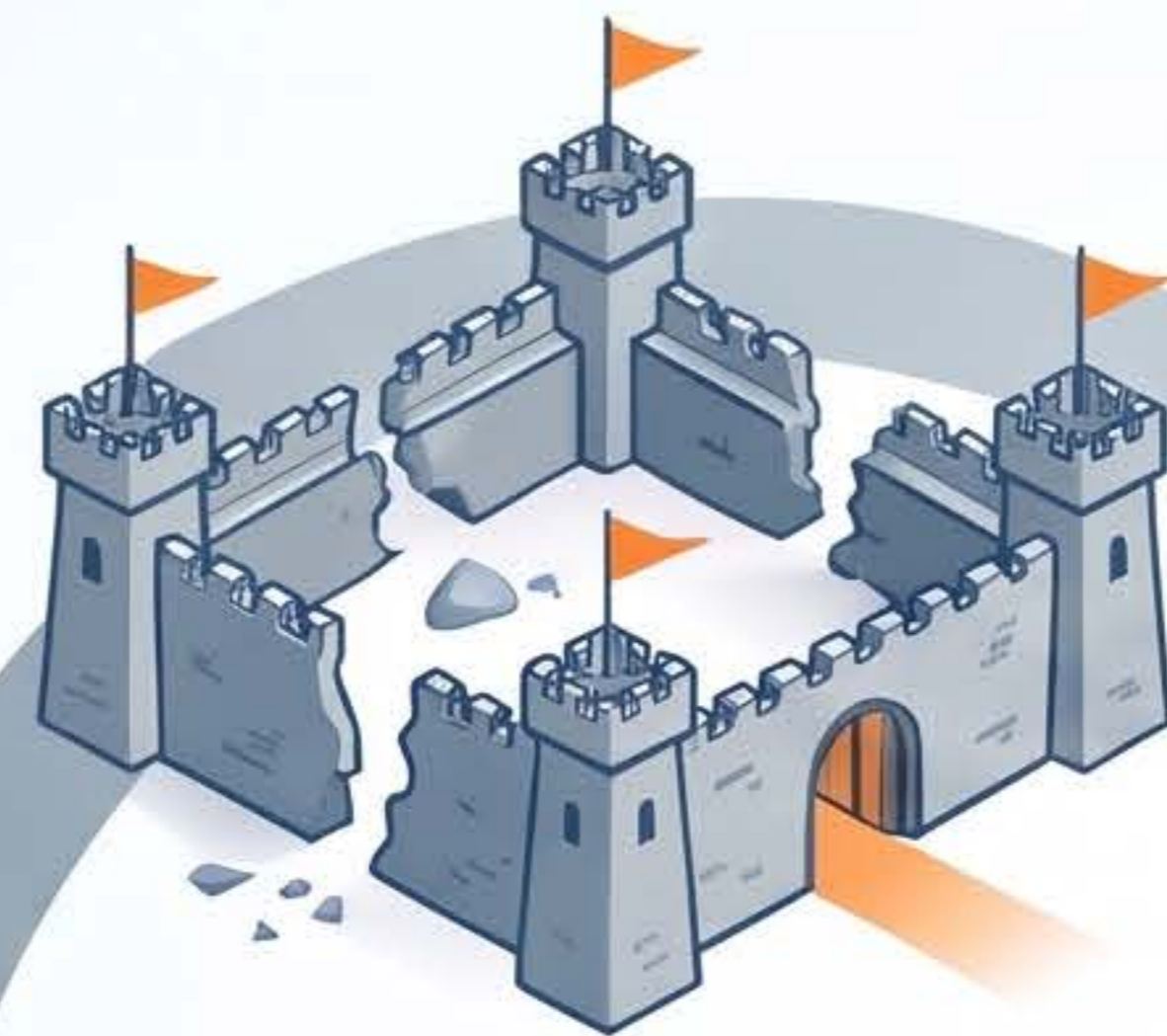
## 過去の課題：限界を迎えた「防衛型」知財



情報のサイロ化と「ガラパゴス化」  
海外売上比率が8割を超える中、国内特化のレガシーシステムにより拠点間の情報が断絶。



属人的な「経験」への依存  
客観的なデータ指標が不足し、如財部と事業部間のコミュニケーションに共通言語が欠如。



### 旧システム (国内ベンダー)

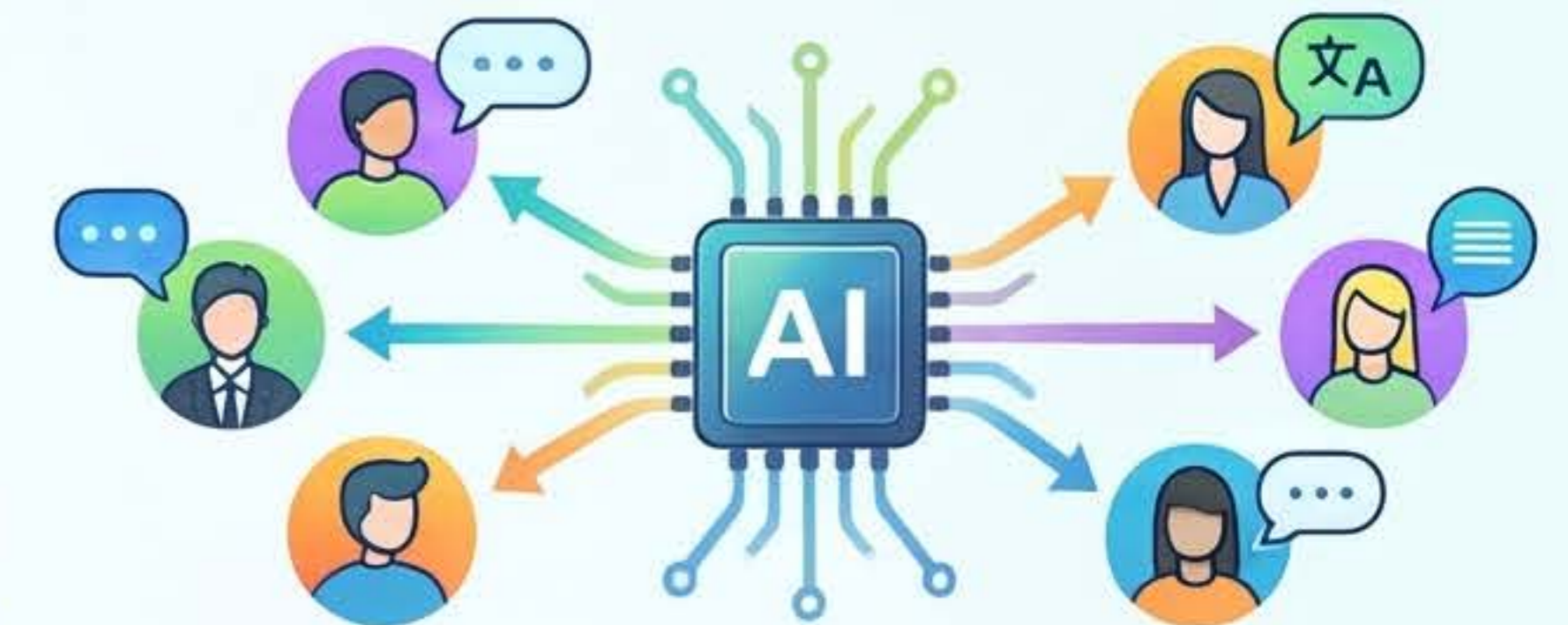
- 管理範囲：日本国内の技術・情報に特化
- 柔軟性：カスタマイズ過多で硬直化
- セキュリティ：外部連携に懸念あり

売上高5兆円規模への成長と「循環型ソリューション」への事業転換に伴い、AIとデータ基盤を導入。

### 新システム (IPfolio)

- 管理範囲：グローバル規模での情報統合
- 柔軟性：Salesforce基盤の柔軟な設計
- セキュリティ：世界最高水準の堅牢性

## 未来の姿：AIとデータが駆動する「戦略・伴走型」



AIによる「知財ナレッジの民主化」  
Agentforce等の生成AI活用により、言語の壁を越えたグローバルな情報共有と解析を実現。



PatentSight+による客観的分析  
特許の「質」をスコアリングして視覚化し、事業部と同じダッシュボードで戦略を議論。



オープン (市場創出)： R32冷媒  
クローズ (コア技術保護)： VRV等  
「オープン・クローズ」の使い分け  
R32冷媒の開放 (市場創出) と、VRV等のコア技術の徹底保護を高度に両立。